

よくあるご質問

Q 利用可能な支払い方法を教えてください。

A 銀行振込またはクレジットカードのいずれかがご利用可能です。

Q 初期状態で通信制限はありますか？

A 初期状態では、サーバーから外部への通信は全て許可、外部からサーバーへの通信は全て拒否となっています。

Q 仮想サーバーは何台まで作成できますか？

A 仮想サーバーの作成台数に制限はありません。

Q 仮想サーバーで使用中のデータディスクを、別の仮想サーバーで使用できますか？

A データディスクのデタッチおよびアタッチをしていただくことで、異なる仮想サーバーで 사용할 ことが可能です。

Q ディスクのダウンロードやアップロードはできますか？

A VHD形式でダウンロード、アップロードともに可能です。

Q データディスクはいくつまで作成できますか？

A データディスクの作成可能数に制限はありません。
1仮想サーバーあたり最大13個まで割り当て可能です。



アルとタスかるガイド

よくあるご質問のWebサイト

URL <https://support.gmocloud.com/>

GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社

お手続き関連のお問い合わせ



03-4233-1167 音声案内番号[1]
平日10時～18時(土日祝日、弊社特別休業を除く)



<https://form.gmocloud.com/altus/operation/>
24時間365日受付

技術的なお問い合わせ



03-4233-1167 音声案内番号[2]
平日9時～19時(土日祝日、弊社特別休業を除く)

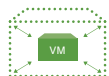


<https://form.gmocloud.com/altus/tech/>
24時間365日受付

プランご案内

ALTUS Basic は、自由なサイズで仮想サーバーを作成できる高品質パブリッククラウドです。

Basicシリーズの特長



台数もリソースも自由自在に
サイズ変更できる仮想サーバー

リソース拡張は10秒。インスタンスを変えることなく、vCPUやメモリのサイズを、いつでもスピーディに拡張・縮小できます。Basicシリーズはスケーラビリティに優れています。

どれだけ使っても
転送料金 **0円**

データ転送料0円。大量アクセスで膨大なトラフィックが発生しても、コストの心配は無用です。



連携サービスも充実

CMSや複数のセキュリティソフト、サーバー管理ツールとも連携が可能です。クラウドの可能性を存分に活かした構成を組むことができます。

3種類の仮想サーバー



Custom Server

リソースサイズを自由に指定・変更可能。利用状況に合わせてリソースサイズを最適化できる、クラウドならではの仮想サーバーです。

1~12vCPU	1~64GBメモリ
帯域: 共用	



m1 Server

AWS (Amazon Web Service) のAPIに対応した、固定サイズの仮想サーバーです。

m1.small	m1.large	m1.xlarge
1vCPU 2GBメモリ	2vCPU 8GBメモリ	4vCPU 16GBメモリ
帯域: 共用		



Mini Server

固定サイズの仮想サーバーです。ディスクの追加は可能です。また、いつでもCustom Serverに変更し、リソース拡張ができます。

1vCPU	512MBメモリ
帯域: 3Mbps	

基本的な料金システム

1GBメモリ	1コアvCPU (2GHz相当)	20GBディスク
リソースパック (1パック)		
初期費用	月額費用 (税込)	日割料金 (税込)
0円	1,650円	55.00円

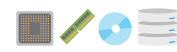


リソースパック

「Custom Server」や「m1 Server」の仮想サーバーで利用できるリソースが、パックになったものです。

ミニサーバー

「Mini Server」をご利用の場合は1台あたり月額550円 (税込) かかります。



従量リソース・ボリューム

「Custom Server」や「m1 Server」で利用している合計リソースがリソースパック購入分を超えた時や、データディスクの増設、バックアップの取得などをすると、各リソースに対して個別に「従量課金」となります。



ネットワーク

Basicシリーズはデータ転送に対する課金が無料のお得なクラウドです。グローバルIPアドレスは仮想サーバー1台につき、1IPを無料で取得できます。

リソースパックの購入

Basicシリーズでは、リソースパックを購入することで従量課金よりお得にご利用いただけます。

ALTUSポータルログイン後、[メニュー]内の[Basicシリーズ]から[リソースパックの購入]画面に移動します。リソースパック数を直接テキスト入力するか、三角のボタンで個数を選択いただくと、月額料金とご利用いただけるリソースが表示されます。ご希望のリソースパック数を入力して[リソースパック数を確定する]ボタンをクリックしてください。

リソースパック購入

リソースを自由に指定できる「Custom Server」、またはAWSと連携性のある「m1 Server」をご利用の場合は、リソースパックをご利用になることが可能です。

現在購入中のリソースパック数	変更後のリソースパック数
3パック vCPU: 3.0 メモリ: 3.0GB ディスク: 60.0GB 月額料: 4550円 (税込)	3 vCPU: 3.0 メモリ: 3.0GB ディスク: 60.0GB 月額料: 4550円 (税込)
	リソースパック数を確定する

ご利用手順

step1

Basicシリーズの有効化

1 ページ

リソースパックの購入

step2

セキュリティグループの作成

設定管理編

3 ページ

コンソール編

14 ページ

step3

仮想サーバーの作成

設定管理編

7 ページ

コンソール編

17 ページ

step4

IPアドレスの追加

設定管理編

9 ページ

コンソール編

20 ページ

step5

設定管理編

ディスクスナップショット

11 ページ

コンソール編

スタティックNATの設定

21 ページ

step1

Basicシリーズの有効化

ALTUSポータルからGMOクラウド ALTUSBasicシリーズのコンソール操作やご利用状況の確認、各種お手続きが行えます。

1. ALTUSポータルにログイン

GMOクラウド ALTUSのポータルID、またはアカウントマネージャーのIDでログインします。

IDは下記の件名のメールをご確認ください。

件名:

【GMOクラウドALTUS】お申し込みありがとうございます



ID

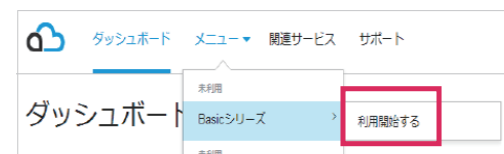
パスワード

ログイン

IDまたはパスワードをお忘れですか?
アカウントをお持ちではないですか? 今すぐ登録

2. サービスの有効化

[メニュー]から[Basicシリーズ]を選択し、サービスの有効化を行います。

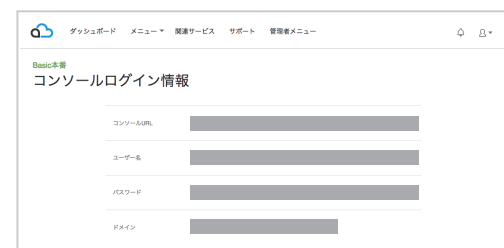


3. 有効化完了の確認

コンソールログインボタンとコンソール情報が右のように表示されれば、有効化は完了です。

これらの情報はポータルを介さずに直接コンソールにログインする際に必要になります。直接コンソールにログインする方法は下記Webページよりご確認ください。

<https://support.gmocloud.com/pf/guide/basic/console/user.html>

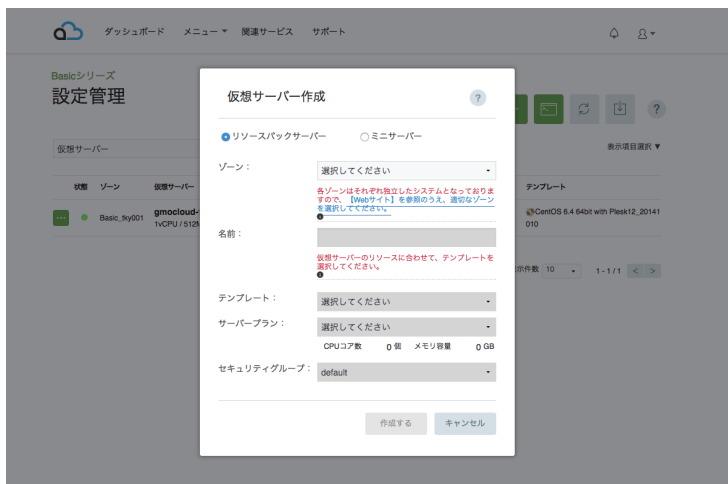


設定管理編

設定管理画面は、仮想サーバーや各種設定内容を一覧表示で確認できます。また、コンソールにログインしなくても、仮想サーバーを簡単に構築可能です。CSV 形式でもダウンロード可能なため設計書としてもご利用ください。

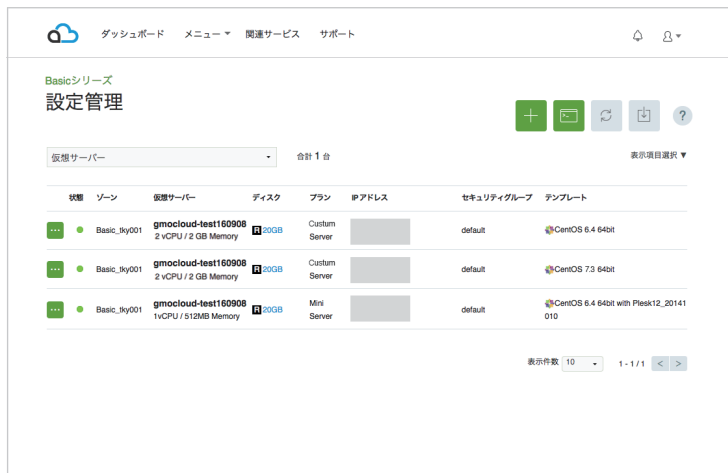
仮想サーバーをかんたん設定

仮想サーバーを作成するまでわずか40秒! ボタンをクリックするだけで、次々と設定が行えます。



各種設定を一覧表示

仮想サーバーのスペック、ディスク容量、IPアドレス等の設定情報や収容先が一覧で確認できます。コンソールでの作業もすぐに反映します。



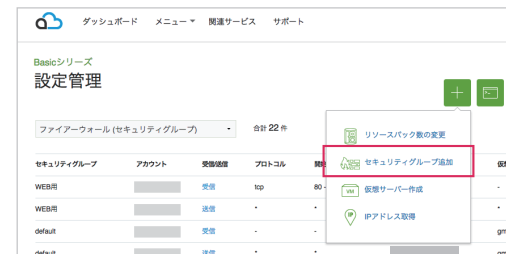
step2

セキュリティグループの作成

default (標準) のセキュリティグループとは別に、任意の名前のセキュリティグループを作成できます。利用用途に合わせてセキュリティポリシーをグループ化して便利にご利用いただけます。

1. セキュリティグループを追加

[セキュリティグループ追加] をクリックします。



2. セキュリティグループ名を設定

任意のセキュリティグループ名と説明を入力し、[追加] をクリックします。



3. 追加完了の確認

追加完了の情報が表示されます。



4. 受信規則、送信規則を設定

ファイアウォール (セキュリティグループ) 一覧に追加したセキュリティグループが表示されますので、受信規則、送信規則を設定してください。

初期設定

外部インターネットからの通信 (受信規則) : すべて拒否
仮想サーバーから外部への通信 (送信規則) : すべて許可

※受信規則について、特定のIPからのみの通信を許可する場合、サブネットは/32を指定いただくようお願いいたします。/0で設定した場合、全てのIPからの通信を許可する設定となり、セキュリティ上大変危険な状態になります。
※送信規則は初期状態で全て許可となっているため、特に必要な場合以外入力する必要はありません。ルールを追加すると、追加された通信 (ポート、IPアドレス) のみ許可し、他はすべて拒否する設定となります。



ポリシー追加(任意)

1. ポートの受信規則、送信規則の設定

各種ポートの受信規則、送信規則を設定します。
受信規則のリンクをクリックします。



2. サービス名またはポート番号を入力

プロトコルを選択し、ポート番号にサービス名もしくはポート番号を入力します。

サービス名はウェルノウンポートに置き換えられます。インターネット全体に公開するWebサービスなどは対象ネットワークに[すべてのIPアドレス]を選択します。



SSHやFTPなど、サーバーにログインし操作を行えるサービスについては、固定IPアドレスなど接続元を制限されることをお奨めします。



設定した内容が一覧表示されます。



送信規則は特に設定をされない場合、すべて許可となります。送信規則を設定する場合、管理用ポートの開放が必要となるため、自動的に開放されます。

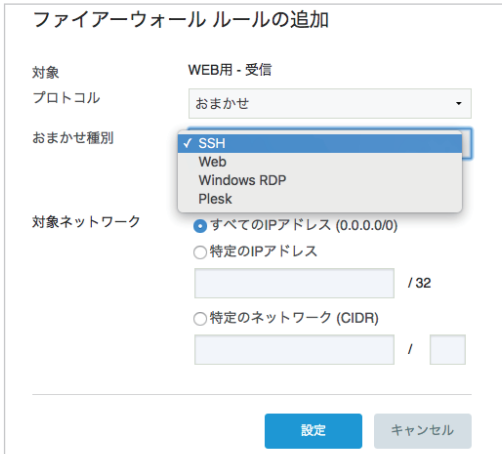


ポリシー追加(おまかせ)

1. プロトコルで「おまかせ」を選択

プロトコルで「おまかせ」を選択すると、利用サービスのポートが設定されます。

おまかせ種別	おまかせ種別
SSH	SSH(22)
Web	HTTP(80), HTTPS(443)
Windows RDP	リモートデスクトップ (3389)
Plesk	Web(80,443) Mail(25,587,465,110,995,143,993) FTP-Control(21), Plesk(8880,8443,8447)



ポリシー削除

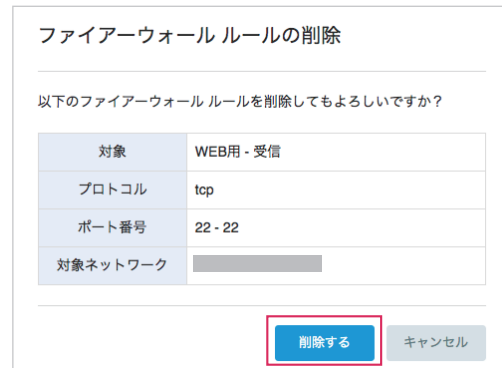
1. ゴミ箱アイコンをクリック

不要なポリシーを削除する場合は、対象ポリシー右側に
あるゴミ箱アイコンのボタンをクリックしてください。



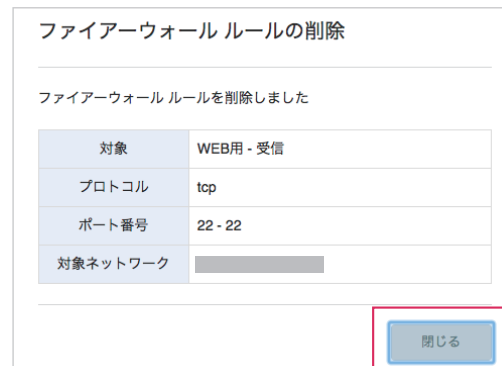
2. 確認画面の[削除する]をクリック

確認画面が表示されるので、問題がなければ[削除]をクリックしてください。



3. 削除完了画面の確認

削除完了画面が表示されます。



4. 一覧画面の表示を確認

一覧画面から表示が消えていることを確認してください。



step3

仮想サーバーの作成

簡単に仮想サーバーを作成できます。また、作成した仮想サーバーの一覧に設定管理やコンソールからリソース設定を行った内容が反映されますので、仮想サーバー設定関連やファイアウォール設定関連等の一元管理が可能です。

1. [仮想サーバー作成]をクリック

右上にある[+]ボタンをクリックし、[仮想サーバー作成]をクリックします。



2. ミニサーバーまたは、リソースパックサーバーを選択

ミニサーバーまたは、リソースパックサーバーを選択します。
選択により、表示される項目が異なりますので、必要な情報を入力または選択してください。



[ミニサーバー選択時の画面]



[リソースバック選択時の画面]

ゾーン	Zoneの選択が可能です。下記の注意点を ご一読のうえ選択してください。 ※ネットワークやストレージをZone001と Zone002にまたがって設定することがで きないため、既にZone001で作成した仮想 サーバーがある場合には、Zone001を選択 することで、既存の仮想サーバーと同じネッ トワークに設定できます。 ※詳細については、ゾーンについて (https://www.gmcloud.com/basic/service/zone.html)をご参照ください。
名前	仮想サーバー名を任意の名前で入力
テンプレート	ご希望のテンプレートを プルダウンメニューより選択
サーバープラン	Custom Serverもしくはm1から始まるサー バープランを選択 ※1
セキュリティグループ	defaultもしくは作成済みの セキュリティグループを選択 ※2

※1 AWS EC2 互換 API をご利用の場合は m1 から始まるプランを
ご利用ください。
※2 default 以外にセキュリティグループを作成する場合は、セキュ
リティグループの新規作成が必要です。

仮想サーバー作成

☒ リソースバックサーバー ☐ ミニサーバー

ゾーン: Basic_tky001

名前: gmcloud-test

テンプレート: CentOS 7.3 64bit 20170209

サーバープラン: Custom Server
CPUコア数 1 個 メモリ容量 2 GB

セキュリティグループ: default

作成する キャンセル

3. [作成する]をクリックし、表示されたrootパスワードを控える

[作成]をクリックすると、仮想サーバーが作成され、情報が
表示されます。

※rootパスワードは後から画面上で確認できないので、この表
示の記載を控えてください。

仮想サーバー作成

以下の通り仮想サーバーを作成しました

名前	gmcloud-test
rootパスワード	
テンプレート	CentOS 7.3 64bit 20170209
サーバープラン	Custom Server
	CPUコア数 1 個 メモリ容量 2048 MB ディスク容量 20 GB
セキュリティグループ	default Default Security Group

閉じる

注意事項

表示されたパスワード
は再表示されません
ので、必ずメモを取る
ようにしてください。

4. 管理画面から仮想サーバーの作成を確認

[閉じる]をクリックすると、設定管理メニューに戻り、仮想
サーバーが作成されていることが確認できます。

Basicシリーズ
設定管理

仮想サーバー 合計 2 台

状態	ゾーン	仮想サーバー	ディスク	プラン	IPアドレス	セキュリティグループ	テンプレート
●	Basic_tky001	gmcloud-test 1 CPU / 2GB Memory	10GB	Custom Server		default	CentOS 7.3 64bit 20170209

Basicシリーズ
設定管理

仮想サーバー 合計 2 台

表示項目選択

状態
ゾーン
仮想サーバー
ディスク
プラン
IPアドレス
セキュリティグループ
テンプレート
☐ アタッチされた ISO
☐ アタッチメントグループ
☒ ハイパーバイザー

決定する

また、[表示項目選択]で、表示させる項目をカスタマイズで
きます。

step4

IPアドレスの追加

グローバルIPアドレスの新規取得

1. [IP アドレス取得] をクリック

右上にある[+]ボタンをクリックし、[IPアドレス取得]をク
リックします。

ル(セキュリティグループ) 合計 22 件

リソースバック数の変更
セキュリティグループ追加
仮想サーバー作成
IPアドレス取得

2. ゾーンを選択して[取得]をクリック

Zoneの選択が可能です。下記の注意点を
ご一読のうえ選択してください。
※ネットワークやストレージをZone001とZone002にまた
がって設定することができないため、既にZone001で作成し
た仮想サーバーがある場合には、Zone001を選択すること
で、既存の仮想サーバーと同じネットワークに設定できます。
※詳細については、「ゾーンについて」をご参照ください。

選択後に[取得]をクリックします。

グローバルIPアドレスの新規取得

新規にグローバルIPアドレスを取得してもよろしいですか?

ゾーン: 選択してください
選択してください
Basic_tky001
Basic_tky002

3. 取得完了画面の表示を確認

一覧に未割り当てグローバルIPアドレスが表示されます。

グローバルIPアドレスの新規取得

グローバルIPアドレスを取得しました

IPアドレス 153

閉じる

Basicシリーズ
設定管理

未割り当てグローバルIPアドレス 合計 1 個

ゾーン グローバルIP
Basic_tky001 153

スタティックNATの設定

1. 仮想サーバーの該当ローカルIPアドレスのリンクをクリック



2. IPアドレスを選択して[追加する]をクリック

[取得済みグローバルIPアドレスの場合]

「未割当のグローバルIPアドレスを利用する」のラジオボタンを選択すると、プルダウンメニューに取得済みのグローバルIPアドレスが表示されます。
仮想サーバーと紐付けを行いたいIPアドレスを選択して[追加する]をクリックします。

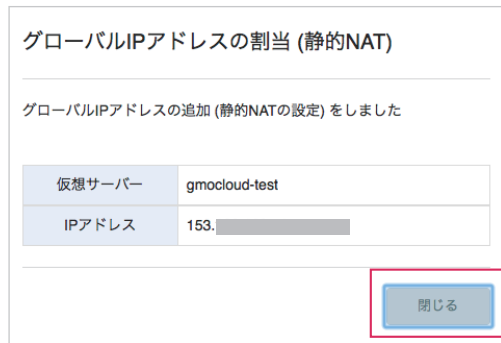
[新規グローバルIPアドレス取得の場合]

「新規にグローバルIPアドレスを取得する」のラジオボタンにチェックを入れ、[追加する]をクリックします。



3. グローバルIPアドレスのNAT有効化が完了

仮想サーバーに対しグローバルIPアドレスのNAT有効化が完了しました。



仮想サーバーの一覧画面で、ローカルIPアドレスにグローバルIPアドレスが紐付けされていることを確認してください。



step5

ディスクスナップショット

データディスクごとにバックアップ(スナップショット)が取得できます。

ディスクスナップショットの取得

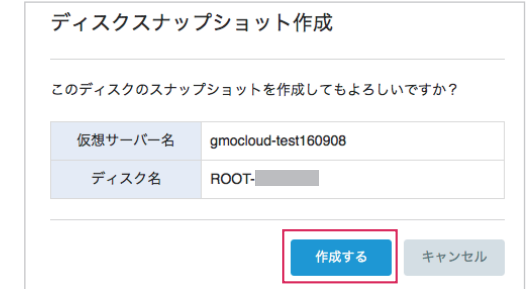
1. 取得したいディスクのリンクをクリック

仮想サーバー一覧からスナップショットを取得したいディスクのリンクをクリックします。



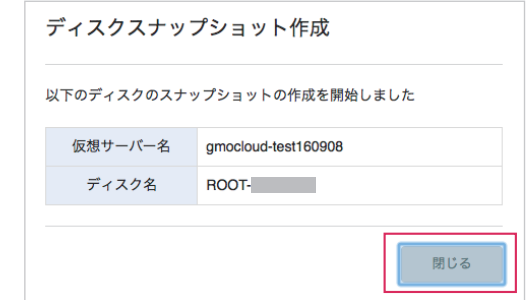
2. [作成]をクリック

確認画面が表示されますので、問題がなければ[作成]をクリックしてください。



3. 作成完了画面の確認

スナップショット作成完了画面が表示されます。



4. スナップショットの確認

[スナップショット]の一覧に、取得中のディスクスナップショットが表示されます。状態が緑点灯になれば取得完了です。



ディスクスナップショットの削除

1. 削除したいスナップショットの
ゴミ箱アイコンをクリック

スナップショット一覧の、削除したいスナップショットのゴミ箱アイコンをクリックします。



2. [削除]をクリック

確認画面が表示されますので、問題がなければ[削除]をクリックしてください。



3. 削除完了画面の確認

スナップショット削除完了画面が表示されます。



コンソール編

コンソールは、仮想サーバーや仮想ルーター（ネットワーク）の構築をはじめ、各種設定を行う管理画面です。



上部メニューから[コンソール]ページに移動し、コンソールログインボタンをクリックするとコンソールウィンドウが開きます。
[コンソール]のクリック後は、以下のダッシュボードが表示されます。



1	ダッシュボード 仮想サーバー アフィニティグループ ストレージ ネットワーク テンプレート イベント アカウント ドメイン ガイド 停止中のサーバーを起動します。	上記ログイン後の画面。現在のアカウント内の状況をご確認いただけます。 仮想サーバーの作成、設定などを行います。 複数の仮想サーバーを運用する場合に、それぞれ別のハイパーバイザーに仮想サーバーを収容するようグループ分けを行います。 ディスクの追加や削除などの操作を行います。 仮想ルーターの作成、ネットワークの諸設定を行います。 テンプレートの作成、削除、確認などを行います。 コンソール上の操作のログを参照できます。 アカウント情報の参照、ユーザー追加などの操作を行います。 自身が所属するドメインの情報を参照します。 コンソールガイドのマニュアルサイトへのリンクします。 停止中のサーバーを起動します。
2	通知	実行されたタスクとステータスの一覧が表示されます。
3	仮想サーバーのステータス	ドメイン内の起動中 / 停止中の仮想サーバ数が表示されます。
4	最新イベント	直近 4 件のイベントログが確認できます。
5	ネットワーク設定状況	アカウント内のグローバル IP アドレスの数が表示されます。

セキュリティグループの作成

セキュリティグループを作成することにより、複数の仮想サーバーに対する接続制限を一括して管理することができます。セキュリティグループは仮想サーバーの作成前に作成時に必須となるため、事前に作成を行ってください。

1. 左メニューの[ネットワーク]から[セキュリティグループ]を選択

左メニューの [ネットワーク] をクリックし、プルダウンメニューから [セキュリティグループ] をクリックします。

※選択したセキュリティグループは後から変更できません。

初期設定

外部インターネットからの通信 (受信規則) : すべて拒否
仮想サーバーから外部への通信 (送信規則) : すべて許可

※受信規則について、特定のIPからのみの通信を許可する場合、サブネットは/32を指定いただくようお願いいたします。/0で設定した場合、全てのIPからの通信を許可する設定となり、セキュリティ上大変危険な状態になります。
※送信規則は初期状態で全て許可となっているため、特に必要な場合以外入力する必要はありません。ルールを追加すると、追加された通信 (ポート、IPアドレス) のみ許可し、他はすべて拒否する設定となります。



2. [セキュリティグループの追加]をクリック



3. セキュリティグループの情報を入力

名前は任意のセキュリティグループ名を入力してください。Webを公開する運用は「Web」など、わかりやすいグループ名をおすすめします。

セキュリティ グループの追加

セキュリティ グループの追加

名前:

説明:

キャンセル OK

4. 追加完了

セキュリティグループの作成が完了すると、リスト上に表示されますので、名前をクリックします。



セキュリティグループの設定

1. 受信規則の追加

[受信規則]をクリックし、インターネットからサーバーに向けての通信について設定します。

Add by:の項目でCIDRにラジオボタンのチェックが付いていることを確認し、プロトコルを選択し、開始ポート、終了ポート、CIDRを入力し[追加]をクリックします。

プロトコル	TCP、UDP、ICMP から選択できます。
開始ポート	プロトコルにTCP/UDPを選択すると表示されます。利用サービスのポート番号を入力します
終了ポート	プロトコルにTCP/UDPを選択すると表示されます。利用サービスのポート番号を入力します。
ICMPの種類	プロトコルにICMPを選択すると表示されます。すべてのICMPパケットを許可する場合は「1」を入力します。
ICMPコード	プロトコルにICMPを選択すると表示されます。すべてのICMPパケットを許可する場合は「-1」を入力します。
CIDR	許可する接続元 CIDRを入力します。

ロードバランサー経由で接続するためには、ロードバランサーから仮想サーバーの対象ポートに接続する必要があります。接続を許可する下記ルールをセキュリティグループへ追加してください。

プロトコル	開始ポート	終了ポート	CIDR
TCP	80	80	192.168.0.0/24
TCP	443	443	192.168.0.0/24



詳細 受信規則 送信規則

Add by: ☒ CIDR ☐ Account

プロトコル	開始ポート	終了ポート	CIDR	追加
TCP				追加

受信規則 入力例

プロトコル	ICMPの種類	ICMPコード	CIDR	追加
ICMP				追加
TCP	80	80	0.0.0.0/0	☒
TCP	22	22	192.168.0.0/24	☒
TCP	8080	8080	0.0.0.0/0	☒
ICMP			0.0.0.0/0	☒

- WEB (80 番ポート) : すべての接続元に対し開放
- SSH (22 番ポート) : サーバー管理者のみ許可
- ICMP パケット : ping 応答のみ許可する (ICMPの種類: 8 / ICMPコード: 0)
- 管理利用 (8080 番) : すべての接続元に対し開放

2. 送信規則の追加

次に、仮想サーバーからインターネット方向に向けた通信の設定を行うため、[送信規則]をクリックします。

※送信規則は初期状態ではすべて許可ですが、ルールを追加すると、追加された通信 (ポート、IPアドレス) のみ許可し、他はすべて拒否する設定となります。

※ ICMP をすべて許可する場合は ICMP の種類は「-1」、CMP コードは「-1」としてください。

※ Windows Server テンプレートをご利用の場合、別途Windows Firewall の設定が必要です。

送信規則 入力例

詳細 受信規則 送信規則

Add by: ☒ CIDR ☐ Account

プロトコル	ICMPの種類	ICMPコード	CIDR	追加
ICMP				追加
TCP	1	65535	0.0.0.0/0	☒
ICMP			0.0.0.0/0	☒

- 仮想サーバーからインターネット方向の通信をすべて開放する場合は上記のように入力します。

注意事項

※システム仕様上、管理サーバーとの通信が必要となるため、8080番ポートは開放していただくをお願いします。

管理サーバー以外の 8080 番ポートについて制限を行いたい場合、仮想サーバーから以下コマンドで管理サーバーのIP アドレスをご確認いただき、ポリシー設定をお願いします。

#CentOS の場合
cat /var/lib/dhclient/dhclient-eth0.leases | grep dhcp-server-identifier ; tail -n 1
#Ubuntu の場合
cat /var/lib/dhclient/dhclient.leases | grep dhcp-server-identifier ; tail -n 1

便利な使い方

Add by: の項目の [Account] を選択するとセキュリティグループ間の通信を許可する設定が行えます。

データベースサーバー用のセキュリティグループを作り、WEB用セキュリティグループ「WEB」からの22番 (SSH) 接続は許可する場合以下のように入力します。

プロトコル	開始ポート	終了ポート	アカウント	セキュリティグループ
TCP	22	22	dbxxxxxxx	WEB

アカウントの「dbxxxxxxx」はクラウドコンソールにログインいただく際のdbと数字で構成されるユーザー名になります。

Tips

いくら素晴らしいWebサイトを作っても、セキュリティがおろそかになってしまえば台無しです。セキュリティを高めるためにはセキュリティグループを利用して通信を許可するポートや、CIDRを適切に設定することがとても重要です。

❶ 1つのIPアドレスからのみ接続を許可する場合のCIDR記述例

CIDR:192.168.0.1/32

○ 良い例

1つのIPアドレスを示す正しいサブネットマスク"/32"を記載すると正しく通信が制御されます。

CIDR:192.168.0.1/0

× 悪い例

"/0"と記載した場合、残念ながら全てのネットワークから接続が許可されてしまいます。全ての接続を許可したい場合には"**0.0.0.0/0**"と記述してください。

❷ 狙われやすいポートには制限をかける

SSH、FTP、リモートデスクトップなど、仮想サーバーへログインするためのプロトコルは特に狙われがちです。

❶の例をもとに接続元の制限をかけ、パスワードなどのアカウント情報をランダムな英数字にすることが、お客様のサーバーを安全に保つための第一歩です。

step3

仮想サーバーの作成

OSテンプレート または ISO イメージや、仮想サーバーサイズ、ネットワークなどの設定を行い、仮想サーバーを作成します。

1. [仮想サーバーの追加]をクリック

左メニューの[仮想サーバー]>[仮想サーバーの追加]をクリックします。



2. 仮想サーバー各項目の設定

[仮想サーバーの追加] の設定画面が表示されます。各項目の設定をします。

セットアップ

ゾーン、および作成する仮想サーバーのOSテンプレート、またはISOイメージを選択します。

ゾーンの選択が可能です。下記の注意点を一読のうえ選択してください。
※ネットワークやストレージをZone001とZone002にまたがって設定することができないため、既にZone001で作成した仮想サーバーがある場合には、Zone001を選択することで、既存の仮想サーバーと同じネットワークに設定できます。

OSテンプレートまたはISOイメージの選択

OSテンプレート

弊社より提供しているOSテンプレート、またはお客さまが登録されたOSテンプレートより仮想サーバーを作成します。
※ルートディスクのサイズは Linux の場合、20GB です。Windows 2008 の場合は 40GB、Windows 2012 の場合は 100GB となります。ルートディスクはStandard Disk(標準ディスク)で作成されます。

ISOイメージ

OS 起動可能メディアを含むディスクイメージより仮想サーバーを作成します。お客さまが登録されたISOイメージからも作成可能です。ルートディスクのサイズは作成時に指定できます。
※ルートディスクのサイズは仮想サーバー作成時に指定可能です(1~1024GB)。ルートディスクはStandard Disk(標準ディスク)で作成されます。

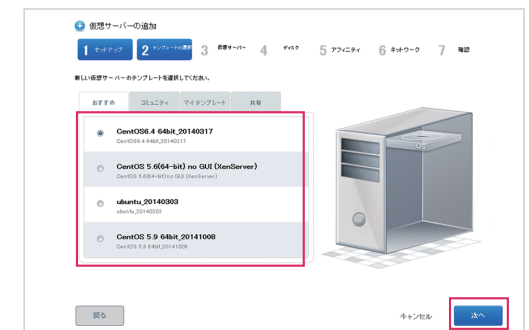
テンプレート

OSテンプレートまたはISOイメージを選択し、[次へ]をクリックします。

おすすめ	弊社より提供しているテンプレートです。
コミュニティ	本サービスでは提供していません。
マイテンプレート マイISO	お客さまが登録されたテンプレート/ ISOイメージをご利用いただけます。



- ゾーンについての詳細は下記ページをご確認ください
<https://www.gmcloud.com/basic/service/zone.html>



仮想サーバーサイズ

仮想サーバーサイズを選択し、[次へ]をクリックします。各サーバーサイズごとに利用可能なメモリ、CPUリソースが異なります。

対象プラン	仮想サーバーの種類	CPU	メモリ
ミニサーバー	Mini Server	1vCPU	512MB
	Custom Server	自由に指定	自由に指定
リソースパック	m1.small	1vCPU	2GB
	m1.large	2vCPU	8GB
	m1.xlarge	4vCPU	16GB

CPU 1vCPU 単位で最大12vCPU まで / **メモリ** 1MB 単位で最大 64GB まで
※「Custom Server」は 2 つあるうちのいずれを選択いただいても構いません。
※「Custom Server」ご選択時はリソースパックのご利用となり、CPU とメモリの値をご入力いただきます。

ディスク

ディスクの選択をし、[次へ]をクリックします。
※いずれの場合もデータディスクは必要に応じて追加が可能です。

テンプレートより作成される場合

ここでは、「設定しない」を選択します。なお、ルートディスクは選択したテンプレートに合わせて自動で作成されます。
データディスクが必要な場合は Standard Disk を選択します。Standard Disk 選択時はサイズを 1~1024GB の範囲でサイズ指定します。
データディスクに Flash Disk をご利用希望の場合は、仮想サーバー作成後にデータディスクの追加を行ってください。

ISOイメージより作成される場合

Standard Disk でルートディスクを作成します。
サイズを 1~1024GB の範囲でサイズ指定します。

対象プラン	仮想サーバーの種類	ルートディスク	データディスク
ミニサーバー	Mini Server	20GB まで無料	従量課金
リソースパック	Custom Server	20GB まで無料	

アフィニティグループの追加

アフィニティグループは必須ではありませんが、複数台を冗長化して運用される場合には下記 URL を参照ください。

[アフィニティグループの作成]

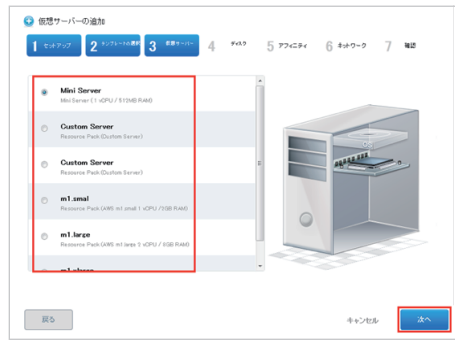
https://support.gmocloud.com/pf/guide/basic/console/make_affinity.html

仮想サーバー単体のみでご利用される場合には、アフィニティグループは不要のため、そのまま [次へ] に進みます。

ネットワーク

仮想サーバーを割り当てたいセキュリティグループを選択し、[次へ]をクリックします。

※選択したセキュリティグループは、仮想サーバー作成後は変更できません。



確認

設定内容を確認します。仮想サーバーの名前、グループ名へ任意の名称(省略可能)、キーボードの言語(省略可能)をご入力し、[VMの起動]をクリックします。

※仮想サーバー名は、ご利用予定のホスト名のドットをハイフンに変えた形を推奨いたします。(例: web01-example-com)

※仮想サーバー名は 63 文字以内で指定してください。

ASCII 文字の a~z、A~Z、数字の 0~9、およびハイフンのみを使用できます。文字で始まり、文字または数字で終わる必要があります。

※仮想サーバー名は、お客さま一意の文字列で設定をお願いいたします。(DHCPサーバーが共用となるため、他のサーバーで既にサーバー名として使用されている文字列を設定した場合、[VMの起動]をクリック後に下記のエラーが表示され設定できません。)

エラー文: The vm with hostName 作成しようとした仮想サーバー名 already exists in the network domain)

3. 仮想サーバーの各項目の設定

作成が完了すると、仮想サーバーのログインパスワードがダイアログで表示されます。

※Ubuntuテンプレートから作成したサーバーの場合は、IDは「cloud」となります。Rootでのログインはできませんのでご注意ください。

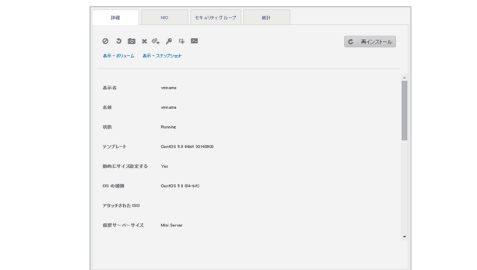
※表示されたパスワードは後から画面上で確認できないので、必ず控えてください。

4. 仮想サーバーの情報の確認

左メニュー[仮想サーバー]>仮想サーバーの名前をクリックすると、OSやサーバーサイズなどの情報を確認できます。

※仮想サーバーの作成完了後、グローバルネットワークより接続を行うには IP アドレスの追加設定が必要となります。

※本手順内でネットワークも新規作成された場合は、サーバー作成完了までお時間を要する場合がございます。



注意事項

- ISOから作成した場合、Xen-Toolsをインストールしてください。
- Windows 2012 Standard Edition R2 JP x64のテンプレートより作成された場合は、初回起動時に時刻合わせを行っていただく必要があります。また、Windows 2008 Serverをご利用の場合は、ライセンス認証を行ってください。詳細な手順については、下記 URL を参照ください。

[仮想サーバーの作成] https://support.gmocloud.com/pf/guide/basic/console/make_virtual.html

IPアドレスの追加

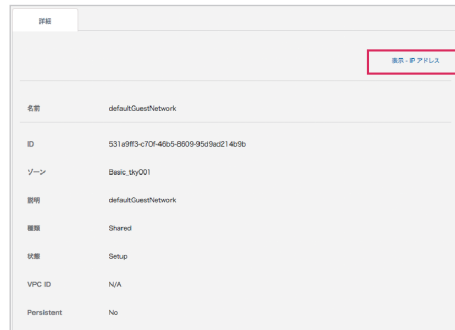
ネットワークに対し、グローバルIPアドレスを追加します。

1. 対象のネットワークを選択

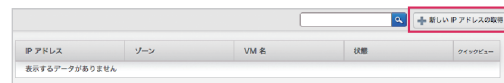
左メニュー [ネットワーク] > [defaultGuestNetwork] をクリックします。



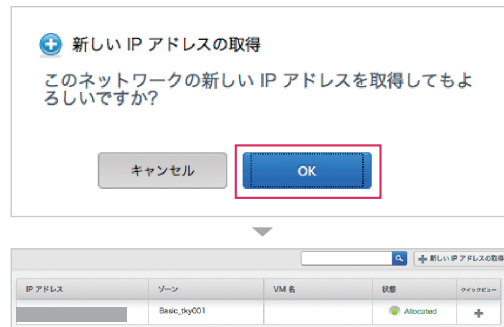
2. [表示- IPアドレス]をクリック



3. [新しいIPアドレスの取得]をクリック



4. 確認画面の[OK]をクリック



完了すると、取得したIPアドレスが表示されます。

外部から仮想サーバーへ接続する2つの方法

仮想サーバーに対し外部より接続を行う方法としては、以下の2つがございます。

お客さまの運用方法にあわせ、いずれかの設定を行ってください

- 1 スタティックNAT (仮想サーバーに1対1でグローバルIPアドレスを紐付ける)
- 2 ロードバランサー (グローバルIPアドレスに対してのアクセスを複数の仮想サーバーへ転送する)

スタティックNATの設定

外部から仮想サーバーに1対1でIPアドレスの紐付けを行うスタティックNATの設定をします。

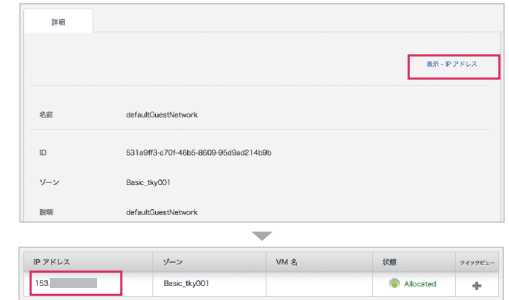
1. 該当IPアドレスをクリック

左メニュー[ネットワーク]>[defaultGuestNetwork]>[表示- IPアドレス]で、該当IPアドレスをクリックします。

※スタティックNATの有効化は追加されたグローバルIPアドレスのみで行えます。

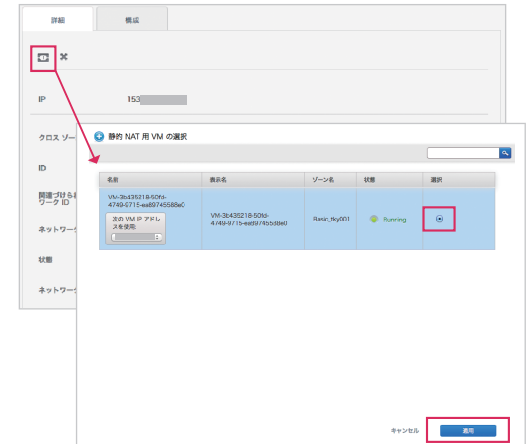
※1つの仮想サーバーに2つ以上のIPアドレスを割り当てする場合は、セカンダリーIPアドレスの追加を事前に行ってください。

※セカンダリーIPアドレスの追加の設定をしているVMを削除する場合は、必ずスタティックNATを有効化を解除してからVMを削除してください。



対象のIPアドレスをクリックします。

2. [スタティックNATの有効化]のアイコンをクリック



3. 対象の仮想サーバーを選択し [適用]をクリック

4. 確認画面の[はい]をクリック

完了後、グローバルIPとして外部から接続できます。

※初期状態では通信は受信は制限(拒否)されています。

